

社会保障・社会福祉

★ASEAN 日本社会保障ハイレベル会合★

日本政府は 1996(平成 8)年のリヨンサミットにおいて、「世界福祉構想」を提唱し、各国の首脳からの賛同を得ました。厚生労働省はこの世界福祉構想に基づいて、ASEAN 地域において 15 年以上にわたって公衆衛生や医療保険等を含む広義の「社会保障」分野について、知恵や経験、成功事例などの共有や、経済開発を進めていくための制度づくり・人づくりを支援してきました。



【写真：2009(平成 21)年第 7 回会合 全体会合】



【写真：2009(平成 21)年第 7 回会合 視察】

ASEAN 日本社会保障ハイレベル会合は、リヨンサミット以降実施してきている社会保障分野の協力について、特に ASEAN 地域に焦点を当て、ASEAN 各国と日本との緊密な関係をさらに発展させることや ASEAN 地域における人材育成を強化することを目指して、ASEAN 10 ヶ国から社会福祉分野と保健分野を担当するハイレベル行政官を招聘し、2003(平成 15)年から毎年開催しています。

2004(平成 16)年には ASEAN においても福祉分野や医療分野での日本、中国、韓国との協力を強化することを目指して ASEAN+3 保健大臣会合と ASEAN+3 社会福祉大臣会合が開始されました。ASEAN 日本社会保障ハイレベル会合の結果は、これらの大臣会合などに報告され ASEAN 諸国からの高い評価を得ています。また、これらの大臣会合との連携をはかりながら ASEAN 日本社会保障ハイレベル会合を開催することにより、相互補完的に必要な知識や情報を交換することを通じて、より良い社会保障政策を共有することを目指しています。

ASEAN 日本社会保障ハイレベル会合のテーマは、日本における社会保障政策に関する状況に加えて、ASEAN 諸国の状況や ASEAN 事務局からの提案も考慮しながら決定されており、会合においては、高齢者、母子、障害者などの社会的弱者に対する福祉サービスと保健サービスとの連携を軸として、中央政府と地方政府との連携、官民の役割分担、コミュニティー活動の活用方策などについて議論を行っています。



【写真：2009(平成 21)年第 7 回会合 施設視察】